

## 「見て、聞いて、知って、感じて、考えた3日間」

宮里かをり

今回はじめて SGRA ふくしまスタディツアーに参加させて頂きました。

東日本大震災後、宮城県には何度か通いましたが、福島に足を運ぶのは初めてでした。原発、放射能とその汚染についてもあいまいな知識があるだけで、積極的に聞いたり、詳しく調べたりすることがないままでの参加でしたが、そんな私にも衝撃的でいつまでも余韻の消えない印象深い体験となりました。

このツアーが私にそれだけの印象を与えたのは、研究者視点のデータと知見、出会う人々の温かさ、熱意、真摯な姿勢、そして飯舘村の美しさでした。

アレンジして下さったふくしま再生の会の継続的な放射能計測や、復興のために村民の方々と協力している様々な活動や試みを見学してお話をうかがい、どれも新しく興味深いものであるだけでなく、そこから客観的なデータを継続して記録することの重要性を感じました。漠然と不安や恐れを感じがちな放射能について、細かなデータを用いて説明して頂き、これまでの自分の不勉強を反省するとともに、知らないものへの抵抗という当たり前の反応から“知る”ということを受け取り方が変わってくることを感じました。また、再生の会の方々には、宿泊や移動、見学、ボランティアの手配にもご支援を頂いて、その懐の広さと温かさが深く染み入りました。2日目夜のパーティーは、村民の方々、周辺にお住いの方、私達同様に見学・ボランティアに来ている方々入り混じっての賑やかな集いの中で、いろいろな方とまじめな話、これまでの苦労話、将来の熱い話、グローバルに関する話、等々いろいろなお話をする機会があり、とても楽しい時間でした。

ツアーを通してお会いした村民の方々は、経験、思い、不安、希望、熱意をオープンに熱く話して下さいました。帰村が翌年3月と間近に控えているという事実が、人それぞれに不安や期待、責任、可能性…に直面させている、ということも感じられました。戻ることによって5年間でなじんできた仮設住宅でのコミュニティがなくなってしまうこと、実際に村民のどれだけの人が帰村するのか、戻っても農作物はまだ流通できない状態で被災前と同じようにして生計を立てていくのは難しいこと…etc。しかし一方で、試行錯誤しながら、それぞれが前向きに、できることに向かって地道に取り組んでいらっしゃいました。“までい（真手）”。聞いたことはあったけれど実感がわかなかった言葉を、今回村民の方々に接して初めて実感することができました。

そして、目に見えない放射能に、汚されているとは信じられない美しい飯舘村の山々、森林、小川や草木、花、田畑。宗夫さんの牧草地やそこから見渡す山々と森林。菅野啓一さん邸の裏の杉林と澄み渡るような空気、家の前からぱっと開けた山並みと木々。大久保金一さんが日々こつこつと少しずつ作りあげている花畑やミニ溪谷、みずばしょうの群生…。5月という季節も幸いして目に鮮やかに輝いていました。

今回 SGRA の皆さんと衣食住を共にして回ることができたのも、このツアーならではの利点であると思いました。1日目夜にみんなで作った食事は楽しく、美味しく、温かいものでした。また、自分が感じたこと・思ったことをその場で共有できる人がいるということ。一緒に参加した人

達の感じたこと・思ったこと・経験等々を聞くことができたこと。このスタディツアーだからできたことで、このツアーに参加させて頂けたことを本当によかったと感じています。

最後になりますが、この印象深い体験の機会を頂いた SGRA、渥美国際交流財団の皆様に御礼申し上げます。

〈宮里かをり MIYAZATO Kawori〉

九州大学教育学部卒業。1999年より平和教育・国際理解教育の非営利組織 CISV で活動。大学時の専攻の臨床心理学や関心分野のグループワーク/カウンセリングやアートセラピー、また CISV でのプログラムやワークショップ実施の経験等を通して、CISV、NPO 法人人財共育センターEN、SGRA の蓼科ワークショップ等でファシリテーターを担当。普段は IT 系コンサルティング会社で事務職。